

フヰリツピンの 變坐視す可らず

最近の報道に據れば米國の東洋艦隊は「マニラ」を襲ひ一撃の下に其砲臺を陥れ又その艦隊を破壊して遂に市街を占領したりと云ふ元來西班牙の其屬地を支配するや甚だ奇蹟にして官吏は收歛を事とし僧侶は跋扈踴躍するが故に人民は不平に堪へずして毎度反旗を翻へすの例なりキューバは申すに及ばずフヰリツピンに於ても現に一昨年來反旗起して西班牙政府は其征討に苦しみ一旦は漸く鎮壓したれども殘虐は尙ほ所々に出現して降伏せず動もすれば死灰再燃せんとするの不幸にも今回左なきだに統帥に苦める「マニラ」政廳は一層困難の地位に陥りしとなりフヰリツピン諸島は遂に如何なる運命に迫る可きや知る可らずキューバに於ては兩軍相持して未だ戦はず勝敗は豫め知る可らざるも戰場の遠近より云ふも軍糧の多少に徴するも結局米國が敗北す可しと思はれキューバも亦恐らくは西班牙の有に非ざる可し日本は東洋に位置するものにして墨西哥海頭と相距るも遠しキューバの運命に對しては利害の關係なしと雖もフヰリツピンに至ては然らず新領地獲得と相對して南洋の關門を爲すものなれば其盛衰存亡は我に直接の影響を及ぼす可し今日の機會、坐視す可きに非ずとして其の方法を如何す可きやと云ふに或は直に之を占領して南洋平和の保證を爲す可しとの説もあらんかなれども他國の難に乘じて其版圖を犯す如きは我輩の斷じて取らざる所なり左ればとて此まに捨置く可きに非ざれば先づ此地方に移住殖民を計らんものと望む其次第は日本の面積は十四萬七千餘方哩にして山の嶺、河の岸、一切耕やし盡くして殆んど開く可き餘地なしと云ふも可なり現に米の作付反別の場合此數年來も増加の跡なし明治二十四年に二百七十五萬餘町歩なりしが二十七年には却て少し減じて二百七十三萬餘町歩を爲り二十八年に至て僅に二萬餘町歩を増したるのみ左れば其收穫も年々略同様にして五六年來三千八百萬石より四千萬石の額を往來するに過ぎず然るに人口は年々著しく増加して止まる所を知らず明治十三年には三千五百九十二萬人なりしに同廿八年には四千二百廿七萬人と爲り十六年間に六百廿五萬人を増したるもなれば今後數十年の間に更に幾千萬人を増すも亦同様に人口は増加して止まる所を知らず明治十三年には三千五百九十二萬人なりしに同廿八年には四千二百廿七萬人と爲り十六年間に六百廿五萬人を増したるもなれば今後數十年の間に更に幾千萬人を増すも亦同様に人口は増加して止まる所を知らず

出し食物の供給を外國に仰ぐの道もなきに非ざれば凡そ一國の住民には自から限あり商業製造如何に盛なるも限なき人員を容る可きに非ず例へば英國の如きは商工業を以て世界に鳴るものなれども其人口は三千八百萬にして之を其面積十二萬方哩に割れば一方哩の住民三百人に過ぎず然るに日本の面積は十四萬方哩にして人口は四千二百萬なれば一方哩に付二百八十名の割合なり略は英國の程度に達したるものなれば此上多數の人口を容るに足らざるは明白なり或は北海道には尙ほ開墾す可き所少なからず新領地獲得にも移民の餘地なきに非ざれば此兩地もても久しからずして充てる可しと云ふ次第は臺灣の人口は凡そ二百五十萬にして九州は六百萬なれば假令九州を以ての割合にまで達せしめ得べしとするも今後僅に三百五十萬を容るに過ぎずして十年間の増殖に應ずるに足らず而して北海道は氣候寒冷にして移住に適せざる所多し左れば外に向て出口を求むるは實に我國の急務にして或は墨西哥巴西等に移住を企てる者なきに非ざれば近く新領地の隣に我民を植るに適當の地方あり即ちフヰリツピン諸島にして土地廣く人口少なし統計に據れば其面積は十一萬四千餘方哩にして日本より稍々小なるのみ然るに其住民は僅に七百萬にして一方哩の人口日本は二百八十八人なるに彼は三十人に過ぎず空地の多き以て見る可し而かも其地味は頗る豊饒にして砂糖、煙草、麻、咖啡等の産物少なからず且つ山には材木多く地下鐵物の富むと云ふ此天恵の地、今や不幸なる變亂の爲めに如何なる運命に立至るやも知る可らず日本國民の袖手傍觀す可き時に非ざれば先づ其地所を購ふて以て殖民の道を開く可し會て日本は之を西班牙政府に相談したるに「エーカー」に付一圓二十五錢づらなるならば求め應ず可しと云ひしとあるよしなれば此際更に協議したらんには殆んど無代償同様に幾多の地を收むるを得べし斯くて續々移民を送り至る所は日本村或は日本町を作らば恰も版圖を擴張したると同様に其利益は大なる可し内には人口の溢るゝあり外には此空地あるに手を袖にして傍觀するは智者の事ならず斷じて押出すものと覺悟して取敢へば先づ調査委員を派遣す可し船内の事情を察し又その求む可き地所を選定する爲め民間の有志なり或は官吏なり兎も角も人を派遣するも肝要にして軍艦も一隻づらるは常に此方面に遊弋せしめざる可らずマニラには多少の日本人ありマリアナ及びカラリン群島にも同胞の商賣に従事するもの少なからざるもなれば之を保護するが爲めにも軍艦の必要は明白にして今更しく此方面に着手するに於ては調査委員の派遣せざる可らず

特派前記

五月三日 佐世保軍港

秋津洲艦は神戸に於て四月二十七日常備艦隊司令官長官柴山中將より急に佐世保に航し石炭を満載して何時たりとも出港し得べき準備を整へよとの命令を受けしければ同夜直に神戸を發して佐世保に向ひ次で艦隊司令官河原少將の旗艦なる松嶋號は浪速艦を率ひて二十八日神戸を發し三十日には三艦共に佐世保に在りて遠航の準備に忙しかりしなるが我が政府にては米西交戦に對して局外中立を布告するとなり常備艦隊をして中立履行の任に當らしむると同時に松嶋、浪速、秋津洲の三艦を臺灣以南に分遣するに決し其訓令は五月一日を以て東京より佐世保へ飛ぶとぞ聞えぬ我が時事新報社にては右の模様を嘆き附くるや三十日午後四時を南洋へ特派するに決し予は直に諸般の準備を整へ同夜午後十時新橋發の汽車に投じて匆匆西行の途に上れり

五月一日(曇) 午前四時三十分分間に着したる頃は夜もはものゝと明け渡り七時二十分頃には遠したるときは朝氣の人心いそぐと新旅客の乗り入るも多し東京より送られし今朝の時事新報が買初めらるゝと同時に大阪朝日の賣場開けたり急行列車は機聲轟く山を迎へ川を送り麥田を綴り菜園を綴り一瞬の移るに隨ふて同乗の連中を更替し東洋去りて静岡に至り名古屋停留して京大坂相次いで代り凡そ名古屋に着し際は一客車中、新橋より乗りたるもの僅に二三名を餘すのみ沿道の農作、車窓より覗きたるのみにて如何とも訝するに難しといへども三河地方の著作若し録入十日前後で異變を受けざるに於ては最も豐作なるが如く尾州地方に於ける菜の花盛は亦見るに麗し水田は猶ほ紫雲英の毛氈を布けるもの多し手早農夫は少しづつ鎌を入るゝもあり桑は初穂も新芽を萌せつゝ東海道線の中に乗客最も多し最も雑沓を極めたるは名古屋以西なりしが這は豊田の餘蘆にやあらん此日子の目に映じて最も奇異の感を抱へたるは愛知縣下に於て九龍の船人が各自小奇麗なる煙草入を懐にし右の男子が煙草を薫らすと均しく仔細らしく煙管を街みて煙を吹かすの一事にてあり時り近來は本婦人の煙草を喫するもの一般に増加するの傾あらんと雖も特に此習俗の最も盛なるは名古屋地方に在るが如し

降り初めたり雨中夜中の混雜に紛れながら山陽鐵道線、徳山行の切符を買ひ跡にて聞けば此日神戸より門司へ直行すべき汽船ありて汽車旅行に依るよりも二時間早く門司へ着すとの事なれども既に乗り掛りたる汽車の引戻すべくもあらず唯だ此れも大阪商船會社が山陽鐵道に競争しつゝある其事實の一斑とみそは知られたれ

山陽鐵道に於て他に例なき特有の美點ともいふべきは夜間客車に電燈を點じ彼の薄暗きランプに代ふるに電光を以てしたるを是れなり

姫路に至るまでは多少の乗客ありしも姫路以西は夜行の旅客少く氣を許して一睡を貪るに便なり

(二日雨) 午前五時五十八分門司を過ぎれば汽車は早や西條驛に在り能く耕やされたる谷の間を過ぎて海田市、廣嶋に至れば海に瀕れる麥田能く繁茂せり之を東海道地方に比すれば菜の花、盛を越えて豆花漸く咲き揃はんとする所稍々異なり廣嶋驛下に於ては既に苗代に穀を下したるものあるを見たり宮嶋より以西に大小嶋嶼の海面に基布せるあり右には起伏せる山谷、巒の咲き亂れたる間に岩に垂れたる紫藤の色與ゆかしきものあり若し雨天ならずば旅情を惹くるに餘りあるものぞと獨り心に惜みつゝ過ぎ行きぬ

午前十一時五十七分徳山に着し旅館に就きて温泉を済ませたる後直に大阪商船會社の汽船吉井川丸に搭せ此汽船は百二十六噸ばかりの小汽船なれど一時間凡そ十節を走り徳山より門司の間を凡そ五時間にて航し得るものなり午後一時三十分船は船々徳山海を渡したるが散雲、峯を絡へるが間に青くして夫船の切替細工に似たるは船の脱決にして田圃に列れるなりとして壁を作るは岩塊の縦に殺ぐなり馬と馬との間に小舟まばらに列を正すは網を海に張るなり白帆遠く又近く航するは商品馬關に輸送するなり予は雨の降るにも頓若せずして暫し甲板に立ちて海景を賞し汽車の眺望窓に於ては此比して航海の一入爽快なるを覺えたる

午後三時を過ぎし後、右方の山々の見えて左方の遠山は雨に濡られたれど船汽船の往復は頗る速く何れも元山岬に近づくや漁舟は泛々として浮ぶもの多し船を廻りて更に航するも數十分船は漸く馬關と門司の間を渡りて船橋林立せる繁華の港に進み入り船を脱したるは既に午後六時三十分なり

前夜神戸に於て開きたる汽船の門司に入りたるは凡そ一時間前にして吉井川丸に搭するよりも必竟一時間を利用するの難定なりと知るれたり右の直航船は武庫川丸を兼し其の若きたるるときは既に門司港の中東に横たひ居るを見たるなり

門司に上陸するや先づ旅館に就きて晩餐を喫

午後十時雨夜汽車に乗り九州鐵道は亞車内に於てすに渡り得るは便所の備に三日 午前五時乗客の汽車に乘り早稲見の汽船に代り此船は苗代に於て小嶋嶼から山陽鐵道線に至る所を航し是れ所を航して佐世保に上江戶の波を直に波止場に漕ぎ着け莊司に出したるに暫後より軍艦の予の此行陸路の晝夜八時間乗るの後便乘前に市中左に聞けるが